

ガーデニング



CHECK



夏は軒下など 涼しい日陰に 置いてネ



寄せ植えの作り方

準備するもの：鉢、鉢底穴のネット、鉢底石、緩効性肥料（「マグァンプK」など）、山野草培養土、赤玉土、山野草、山ゴケ

- ① 鉢底の穴にネットを敷き、鉢底石、緩効性肥料、山野草培養土を入れる。鉢の縁からコケの表面が少し盛り上がった状態に出来上がるのがベスト。培養土を入れ過ぎないように気を付ける。
- ② 苗をポットから出し、根の土を崩して取る。
- ③ メーンにする植物を中心に、花束を作るように山野草を組む。
- ④ 組めたら鉢に入れ、赤玉土を入れる（鉢が大きい場合は山野草培養土を使う）。棒で突くなどして、根の間にすきまができないように土を入れる。
- ⑤ 山ゴケを適当な大きさにちぎり、土に密着するようにのせる。
- ⑥ 出来上がったら、たっぷり水をやる。



プレゼント

「マグァンプK 中粒」250g×609円を10人に。植えつけや植え替え時に、元肥として土に混ぜ込むだけ。1回与えるだけで、約1年間ゆっくり長く効き続け、植物の生育を良くします。23gの応募要領で。プレゼント番号=30、賞品名=マグァンプK 商品提供=ハイポネックス ジャパン 06-6396-1119 <http://www.hyponex.co.jp>



い陶器の皿を利用して、さりげなく身近に飾れるのが魅力。
● 寄せ植えを上手に作るコツは、季節感や雰囲気感を大事にし、◎日なたを好むか、日陰を好むか ◎同じ時期に花が咲く、などの生育条件が合う植物を選ぶこと。



寄せ植え製作 / ガーデンショップ金久・神藤知治

【山野草は日陰で】

山野草の飾り方の基本は自然に、あるがままに、かれんに。日本文化のわび、さび、奥ゆかしさに通じる気品を持ち、季節感や洗練された雰囲気を感じ出します。その名の通り、自生するのは山野。自然を手本に育てることが大切です。

山野草は日本国内で育つ草花の総称。スミシロのように全国各地に自生する植物、日本桜草や大字草、福寿草などのように品種改良が進められた植物と、多種多様です。大半が宿根草で、多くの植物が冬は株だけになり、翌春、新しい芽を伸ばします。
栽培が難しいと思われがちですが、日本の気候に合う植物が大半。初心者にも育てやすい種類（なでしこや野菊など）がたくさんあり、海外の山野草（原種シクシクメンなど）も数多く出回っています。最近では和風、洋風を問わず寄せ植えが人気。知識豊富な園芸店に相談して、チャレンジしてみよう。

「置く方」のポイント

- 粗い山砂や腐葉土を好む。水はけが良く、根が乾きにくい配合土が最適。初心者は、市販の山野草培養土がお勧め。乾燥を防ぐため、腐葉土やコケを土の表面に置く場合も。
- 真夏は毎日、水をやる。地上部の無くなった真冬でも根が乾かないように、適時、水やりを行う。
- 木々の下で育つものも多く、夏の強い光を嫌う。家の北側や植木の足元、西日が当たらない風通しの良い場所に置く。自生地を見ると適する条件がよく分かる。
- 上手に作ると大株に成長する。秋～早春に株分けや植え替えをして増やせる。

「仕立て方」

鉢の縁より上に土を盛り上げる「小山飾り」や鉢を使わない「コケ玉」が人気。浅めの鉢や古